

ノーモア・ヒバクシャ通信 第36号

発行 2017年8月30日

ホームページ <http://www.kiokuisan.jp/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)
Email hironaga8689@gmail.com
郵便振替口座 00110-5-292881
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

★もくじ

I. 第2回理事会のご報告	P 1
II. 「未来につなぐ被爆者の記憶」プロジェクト	P 2
III. 部会、作業グループの取り組みから	
1. 資料庫部会	
(1) 被爆者の会が発行した体験記集のWeb公開をめざして	P 3
(2) 夏休みを利用して被団協運動史料の整理中	P 3
2. 継承・交流部会	
(1) 被爆者運動に学び合う学習懇談会の概要・資料をHPに掲載予定	P 3
3. 広報電子化部会	P 4
IV. 各地の取り組み、関連企画から	
1. 【つなぐPJ】のレポート	
(1) 「原爆で終戦」のウソと役割を取材して～「ウソを信じた私たち」～	P 4
(2) 橋爪文さん誕生日祝★AKIRA×橋爪文『太陽が落ちた日』を取材して ～「オペラで語る被爆体験」～	P 5

I. 第2回理事会のご報告

国連では「核兵器禁止条約」交渉会議の第2会期(6/15～7/7)が開かれ、条約前文に「ヒバクシャ」を位置づけた議論がすすめられる中、去る7月8日東京四谷主婦会館で第2回理事会が開催されました。

その概要は次の通りです。

(1) 採択された「核兵器禁止条約」の内容と被爆者の役割を共有しました。

内藤雅義理事(反核法律家協会会員)より、核兵器禁止条約の内容と論点、交渉会議の流れと被爆者の役割について、詳しく報告されました。特に、核兵器の人道上の帰結(非人道性)会議での被爆者の役割(オスロ、ナジャリット(メキシコ)、ウィーン会議での被爆体験の発言)によって法的禁止の必要性が焦点化されたこと、条約前文には「被爆者の受け入れがたい苦しみと被害」「核兵器の全面的廃絶に向けた公共の良心の役割と被爆者の努力」が明記されたこと、などを強調しました。核兵器の非人道性の認識を国際的な市民レベルに広げ、核に依存する国々の政策転換を求める世論にしていくことがいよいよ重要になっています。被爆者の果たしてきた役割を改めて確認し、会としてその歩みを継承する取り組みを一層強めていかなければなりません。

なお、日本被団協は同日記者会見し、声明「核兵器禁止条約の採択にあたって 72年間被爆者が求め続けてきた核兵器廃絶の実現のために」を発表しました。(別紙をご参照ください。)

(2) 「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター」設立構想の具体化について討議しました。

同設立構想 (HP掲載の音声付スライド・ムービをご覧ください。) では、向こう5年間 (2015年～2019年) は「資料の収集・保存・整理作業とデジタル・アーカイブ化」に取り組むこととしています。

①資料の収集・整理作業が大きく進み、その中から被爆者の会発行の体験記等を中心に文書電子化保存・インターネット上の公開に向けて「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」を立ち上げ、その試験的な取り組みがスタートしました。「データ化」「アーカイブ化」「(保存データの) 活用」のための各プロジェクトが進められます。また専門家の助言や協力を得て、収集資料全体のアーカイブ化の構築をめざします。

②前述のようにこの会の活動の「見える化」を着実に進めながら、「継承センター設立」を実現するための長期プラン (資金計画を含む) の確立と推進が求められています。そのために、長期計画委員会を設置することとしました。

(3) また東京都への「認定NPO法人の取得申請」手続きを確認しました。「認定」が取得できれば、相続税を含む税制上の優遇措置が受けられることとなります。

II. 「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクト



8月18日 (金)、25日 (金)、29日 (火) の3日間、「未来につなぐ被爆の記憶」データ化プロジェクトでは、コーププラザ浦和でプロジェクトで使用
する証言集の電子化 (PDF化) のトライアル作業
を行いました。

トライアル作業に取り組んだボランティア・スタッフからは「作業自体は単純かもしれませんが、会話をしながら2時間、加えて2時間程度ワークショップができれば、1回1回を充実させることができるのでは」との感想も。25日からは大学生も参加。被爆者からのバトンを次につないでいく世代がどんどん参加してくれると嬉しいです。

(写真は8/25の作業の様子)

Ⅲ. 部会、作業グループの取り組みから

1. 資料庫部会

(1) 被爆者の会が発行した体験記集のWeb公開をめざして

資料庫部会では、これまでに収集した原爆関連資料のなかから、まず、各都道府県・地域の被爆者の会が発行した体験記・手記集等（現在約400点）をインターネット上でできるだけ多くの人たちに見ていただけるようにしたいと考えています。

これらの体験記集の多くは私家版で発行部数も限られており、会の周囲の人びとに知られたものの、時が経てば人知れず埋もれてしまいかねません。被爆者たちが思い出すのもつらい体験をあえて書き残したのは、一人でも多くの人々に原爆が人間にもたらした被害の実相を知ってほしかったから。その思いを最大限活かすには、プライバシーや著作権の問題、利用にあたってのルールなど、公開にあたっての基本姿勢を会として明らかにしておく必要があります。そのために資料庫部会では、専門家のご意見もいただきながらその原案を作成し、日本被団協や首都圏各県の会と協議を重ね、全国各県の会で検討していただく準備をすすめているところです。

(2) 夏休みを利用して被団協運動史料の整理中

今年も、夏休みを利用して、昭和女子大学歴史文化学科の学生さんによる被団協運動史料を整理しています（指導は松田忍先生）。今回は1年生が中心で5人ずつ6日間、のべ30人が参加して下さる予定です。

整理する主なものは、愛知県原爆被災者の会（愛友会）や楠本熊一さん寄贈の和歌山県原爆被災者の会の運動関係の資料。会のニュースや総会、理事会など諸会議の記録、被爆者調査や相談の資料など多岐にわたります。ファイルや封筒にまとめられた資料のほか、段ボールにざっくり入った未整理のままの紙の山から、1960～70年代の日本被団協代表理事会や中央行動、沖縄の施政権返還後に被団協が派遣した調査団の記録など、愛知の事務局長を務めていた木戸大さん（故人）の自筆メモ（活字のようにきれいな筆跡です）など貴重な資料が出てきます。

作業は進行中。どんな宝が出てくるでしょうか…？

2. 継承・交流部会

(1) 被爆者運動に学び合う学習懇談会の概要・資料をHPに掲載予定

継承する会は「被爆者運動に学び合う学習懇談会」を2015年の11月からこれまで8回にわたって開催してきました。今後もひきつづき、被爆70年調査（被爆者として言い残したいこと）や、戦争と原爆を裁く「国民法廷」のとりくみ、空襲被害と原爆、などをめぐって企画していく予定です。

あわせて、学習会に参加できなかった方々にも広くその内容を共有していただけるよう、各回の概要と配布したレジュメ・資料（公開可能なもの）を継承する会のホームページでご覧いただけるよう、準備中です。

3. 広報電子化部会

8/27(日) 広報電子化部会・継承活動に取り組む人々をつなぐプロジェクトの打ち合わせを行いました。今回は新しく一人は仙台からスカイプで、一人は埼玉からの参加がありました。

「継承活動に取り組む人々をつなぐ」プロジェクトは、全国各地にて継承活動に取り組む方々を当会が取材し、上記の Web サイトにてインタビューやレポート記事の形式で掲載していくものです。

被爆者の方々の高齢化がさらに進む中、継承する取り組みはさらにその歩みを急ぐことを求められています。全国にて取り組まれている活動がもっと多くの方に知られるだけでなく、活動同士がつながっていくことも、このプロジェクトを通じて実現したいことのひとつです。ご興味をお持ちいただけの方は、ぜひお気軽にお問合せください。



《プロジェクトの内容》

- ・ご協力内容：継承活動に取り組む団体・個人へのインタビュー取材

- ・場 所：ご自身がお住まいの地域近隣

※打ち合わせは東京都新宿区四谷の事務所で行っていますが、遠方の方の参加があるようならスカイプを利用した打ち合わせも予定しています。

※必要経費として打ち合わせ、取材にかかる交通費をお支払いします。

(写真は8/27の打合せの様子。PCはスカイプ中)

IV. 各地の取り組み、関連企画から

1. 【つなぐPJ】のレポート

(1) (東京) 2/25(土) 「原爆で終戦」のウソと役割を取材して

～「ウソを信じた私たち」～

こんにちは、つなぐPJのしのです！

継承する会主催の「被爆者運動から学び合う学習懇談会」シリーズ7—「原爆で終戦」のウソと役割—に参加してきました。

「原爆が落とされ戦争が終わった」と思っている方はどのくらいの割合でいらっしゃるのでしょうか。広島生まれの私は地域でそういった声を聞くことはありませんでしたが、一旦外に出ると1年程度の海外生活（アメリカ・ニュージーランド・台湾）の中で原爆のことを知っている人のほとんどはこの説を当たり前のように信じていました。

今回はその「原爆終戦神話」にスポットを当て、問題提起者の吉田一人さんからわかりやすい資料数枚と共に解説していただきました。



資料を見せる吉田さん（右）と栗原さん（左）



吉田さんの用意した資料



（会場に集まった参加者）

■ 玉音放送

玉音放送で国民に日本の敗戦を知らされた。尊い犠牲と言って欲しくない。原爆で戦争が終わったと思うからそう表現するのだ。

■ ポツダム宣言

ポツダム宣言がすぐに受諾されなかったのは、国体（天皇制）護持のため。三種の神器が大事だったから。本土決戦に備えて皇居・大本營の避難先として掘り進めていた長野県の地下壕「松代大本營」では、天皇の部屋より三種の神器の部屋が奥にある。つまり天皇の命よりもその神器を守ることが日本再興のカギを握っていたから。

■責任問題

当時国民はおらず、臣民（天皇の家来）だった。情報がまず十分になかった。原爆被害への責任は、「戦争は日本が始めて、原爆はアメリカが落とした。」という被爆者の言葉にあらわれている。

など、全情報を共有した上で天皇・軍部・政府の動きを順に追っていき痛快に矛盾を指摘してゆくものでした。当時の黒塗りにされた教科書なども資料として持ち込んでおられ非常に生々しい戦争の空気に触れることもでき貴重な機会でした。

しの（継承活動に取り組む人々をつなぐPJ）

（2）（東京）1/7(土) 橋爪文さん誕生日祝

★AKIRA×橋爪文『太陽が落ちた日』を取材して ～「オペラで語る被爆体験」～

みなさんこんにちは、つなぐPJのしのです！

みなさんは原爆詩人、橋爪文さんをご存知でしょうか？ 知らない方のために紹介を引用します。



たなべきみこさん(左) 橋爪文さん (中) AKIRA さん(左)

◆橋爪文 広島に生まれ14歳で原爆被爆。詩人。日本ペンクラブ、日本詩人クラブ、詩と音楽の会他に所属。被爆による数々の病気を抱えながら詩作、還暦を過ぎ英語を学ぶために英国ホームステイを始めに七十歳を過ぎてから海外一人旅。原爆体験を伝え核廃絶だけでなく原発への警鐘を鳴らし続け、海外からの取材や講演依頼も多い。詩集「昆虫になった少年」「乗り捨てられたブランコのように」詩と随筆「不思議な国トルコ」詩の歌曲、合唱曲多数。著書「少女・十四歳の原爆体験記」（高文研、初版2001年、2011年に改訂版出版）「フーモギの百五日」（かまくら春秋社 2008年出版）「ヒロシマからの出発」（トモコーポレーション2014年出版）

（引用：院長の独り言 <http://onodekita.sblo.jp/article/115571591.html>）

今年86歳の彼女はある挑戦を決意しました。

それは
自身の原爆詩をオペラとして語る
という企画です。それを彼女に持ちかけたのはミュージシャンの AKIRA さん。

◆AKIRA 1959年日光市生まれ。23歳からニューヨークアンディー・ウォーホルから奨学金を受けニューヨークアカデミーに入学、卒業待たず世界へ。アテネ、フィレンツェ、マドリッドなど、世界100カ国を旅し、帰国後は小説家、画家、ミュージシャンなど多才ぶりを発揮、歌い、創り、旅をする表現者。処女作「cotton100%」は多くの自殺志願者を救い、《NHK 私の100冊》に選ばれ昨年幻冬舎より文庫化。代表作「アジアに落ちる」他著書多数。自らのガンを乗り越え、北海道～沖縄全国各地に呼ばれてライブでは全てオリジナル曲：魂のメッセージを贈り続けている。HP:<http://www.akiramania.com/>
Blog:<http://ameblo.jp/akiramania/>
(New 天の邪鬼日記 <http://ameblo.jp/akiramania/entry-12224973696.html>)

本番当日

場所：町田市民ホール 第4会議室

時間：13:30 受付(14:00 スタート)～17:45

私はこの橋爪文さんのことは以前から名前だけは知っていました。というのも、私の祖母も彼女と同じ広島の女学校の生徒で、そして被爆者なのです。その関係もあり祖母の話から漏れるように聞いていた名前の主に会えるのをとても楽しみにしていたのです。招待を頂いたのはこの企画の発案者であるたなべきみこさんから。彼女のことについても後々みなさんにご紹介しようと思っているのですが、彼女は福岡県星野村にある原爆の残り火「平和の火」の守り人。チャーミングな笑顔が素敵な熱い行動家です。今回は私もスタッフとしての参加です。



会場の様子



ステージ上の文さん(左)と AKIRA さん (右)

当日の会場は 30～40 人入れるキャパシティの会場がみるみるいっぱいになりました。壇上の文さん、AKIRA さんの方へ扇型にセットしてある椅子に自由に座ってゆくスタイルです。

文さんは始めに挨拶、このオペラに挑戦するにあたっての決意や困難だったことなど柔らかに微笑みながら語り、そしてAKIRAさんの音楽でオペラが始まりました。

このオペラは当時14歳の女学生だった文さんの被爆体験記「太陽の落ちた日」を元に作られています。明るい文学好きの少女が天地の裏返るような原爆を生き延び、生や死に触れながら厳しい戦後を生き延びます。非常に凄惨な話ながら暗さはありません。それは文さんの美しい詩的な表現と、そしてどこまでも前向きな生き方がそうさせているのだろうと感じていました。

後日彼女の本を読みましたが、私は自身の被爆体験をここまで詩的に色鮮やかに証言する被爆者さんを今まで知りませんでした。オペラと同様に、非常に悲惨な体験であり生活ですが、その中に生きる喜びと楽しむ智慧をどこまでも自然に見つめて、見つけてゆく彼女独特の姿勢がありました。ぜひ皆さんにも読んでいただきたいと思います。さて時間はあっという間に過ぎ、一時間ほどもあるオペラを文さんは最後まで表現し尽くし会場を後にしました。文さんの体調を慮り、会場に長時間彼女が居るということはなかったのが個人的にお話することはこのときは難しい状況でした。

最後はもう一度文さんが舞台上上がり、誕生日を祝う歌を全員で歌ってプレゼントを渡した後、会場の全員が手を繋いで大きな丸を作り全てに感謝を、といったテーマを持ったAKIRAさんの歌で締めくくりました。

こうして力を振り絞って後世に体験を伝えてくれた橋爪文さん、企画した皆さんに感謝です。



文さんの息子さん(中央)も参加



最後はスタッフで記念にパシャリ！
しの（継承活動に取り組む人々をつなぐPJ）